

廃熱でワサビ栽培



西川浄化センターで栽培するワサビ（新潟市）

新潟県の長岡技術科学大学などは、下水熱を利⽤してワサビを栽培することに成功した。下水道の最終処理場となる新潟市の浄化センターで実証実験し、今秋に収穫する予定だ。実験は下水道の未利用資源の有効活用を目的に、同大学と県、企業で取り組んでいる。下水の冷熱と温熱両方を利⽤して農作物を栽培するのは全国初の試みだ。

同大学の姫野修司准教授は「通常で温度が一定の下水熱を、冷水で栽培

するワサビに生かせる」とが分かった。早生品種が秋には収穫できる」と説明する。

同市の西川浄化センターでは、下水道から出る下水熱をヒートポンプを使って、夏は冷房、冬は暖房として利用する栽培

用することで、水温は真夏でも15度の冷水となり、冬も同じ温度を保つことができる。ワサビの水道水を循環させ、下水を処理した水

冷・温両利用は初

試験をしている。当初、は使わない。

温水を利用したバジル栽培も有力視していたが、収益性などを考慮して最終的にワサビを選んだ。

ワサビは約1・4kgの鉄骨ハウスで栽培。1年半で収穫できる早生種「正緑」と2年で収穫で話した。

姫野准教授は「下水熱は冷房、暖房をうまく使えてるので通年で同じように栽培できる。ワサビが

いつでも収穫できるようになり、植物工場のような生産も可能になる」と話した。

新潟の下水道浄化センターで実証